

東海道第四十八宿

# 東海道五十三次

## 坂下 さかした

東海道中でも有数の難所、  
だいたひ鈴鹿峠。かつては險路のうえに  
山賊が出没として恐れられていた。  
山賊が旅人を待ち受けたりと、鏡石  
は山々を眼下に見晴らす絶景の場所



### ▲鈴鹿馬子唄会館

鈴鹿川の溪谷の向こうに  
筆捨山が見える。かつて  
画聖狩野元信がこの景  
勝に心ひかれて絵を描こ  
うとしたが激しく変わる  
気象の変化に筆が及  
ばず、ついに筆を投げ捨て、  
それ以来筆捨山と呼は

### 画聖の筆捨山

れるまうになつたと  
いう伝説がある。  
たしかにここは鈴鹿山々  
に囲まれ、天候が変わり  
やすい。



東海道  
五十三次  
坂下  
筆捨山

鈴鹿  
堂  
室  
枝



鈴鹿馬子唄会館  
平成七年（一九九五）七月開館。  
国道二号の鈴鹿峠三下線分  
岐点からすぐ多球面型の  
エニークを建物で、周囲には  
五十三次の宿場名を記した  
柱がたてられている。  
多目的ホールには昇降式ステー  
ジも。  
かつてはのぼりくたりの旅人で  
にぎわい、大きな旅籠が軒を  
連ねた。本陣、脇本陣の規模も

街道有数だった  
といふ。  
戸数も一六〇ほどの  
宿場だったが、  
明治以降近代交通  
の谷間に残された  
かたちで急速に  
まじられた。